

産業衛生技術部会 研修会

感染防止のための室内換気／その予測・評価

5月20日（木） 14:25～16:25

第2会場(まつもと市民芸術館 2F 小ホール)

座長：中原 浩彦（ENEOS株式会社 環境安全部 産業衛生グループ）

- 1 換気シミュレーターの開発
貴志 孝洋（みずほ情報総研株式会社 環境エネルギー第2部）
- 2 シミュレーターを用いた実例
山内 武紀（昭和大学 医学部 衛生学公衆衛生学、昭和大学保健医療学部看護学科）
- 3 換気におけるCO₂と粒子の挙動
奥田 知明（慶應義塾大学 理工学部 応用化学科）
- 4 室内CO₂濃度推定値とCOVID-19感染リスクの相関
橋本 晴男（東京工業大学キャンパスマネジメント本部）

座長の言葉

新型コロナウイルス集団発生防止のためには、3密と言われる、「換気の悪い密閉空間」、「多数が集まる密集場所」、「間近で会話や発声をする密接場面」を避けることが重要である。

この3密のうち、「換気の悪い密閉空間」を避ける対策として換気が推奨されているが、換気は部屋の容積、空気導入力、部屋の中の人数など、複数の要因が関係しており、換気の良し悪しの判断は、一般には難しい。

そこで、産業衛生の専門職（産業医、産業看護職、技術専門職など）や、各事業場の衛生管理者などが、室内の換気状態の良し悪しを簡易に見積もることができる換気シミュレーターが開発され、産業衛生学会の産業衛生技術部会ホームページに公開された。同シミュレーターは、換気の間隔を見える化できるツールとして、マスコミでも報道され、多くの機関で活用されてきている。

今回の技術部会研修会では、シミュレーター開発チームからシミュレーターの詳細ならびに応用例を説明いただき、シミュレーターの理解を深めていただく。次に、換気における実際のCO₂や粉じん・飛沫の挙動、および、換気と感染との相関についても論じていただく予定である。

研修会では、活発なご意見をいただき、換気による新型コロナウイルス対策の議論が深まることを期待している。